

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 5 月 25 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200213		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑長東		
所在地	広島市安佐南区長東西3丁目1-5 (電話) 082-230-3030		
自己評価作成日	平成24年3月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成24年4月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>お一人お一人のニーズを的確につかみ、個々のADLや要望に添った個別介護を実践している。又、3度の食事は苑での一番楽しみなものひとつととらえ、冷凍食品やレトルト食品など一切使用せず毎食暖かな手作り料理を提供している。勿論、利用者様にも料理に参加していただいている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームほのぼの苑長東（以下、ホーム）は、住宅街にありながら自然に恵まれ、四季折々の景色を楽しめる環境にあります。ホームでは、毎朝の申し送りで入居者の言葉や様子から感じたことを伝達し、記録に残されています。職員が気づいたことは、全体で情報共有しながら、入居者の気持ちに寄り添い、笑顔が引き出せるケアに努めておられます。また、日曜日は入浴支援をせず、入居者のケアに徹する日に設定されています。</p> <p>ホームは自治会に加入し、地域行事をはじめ草取り清掃にも入居者と職員と一緒に参加されています。地域からはボランティアとして訪問や野菜の差し入れがあったり、果物狩りなどの誘いを受けるなど、日常的に交流を図っておられます。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時、職員全員で作った「理念」があり、毎朝の申し送り時唱和して確認、周知徹底し、実践している。	毎朝の申し送りで、入居者の言葉や様子をみて感じたことなどを伝え、全体で情報共有し、入居者に心を向けたケアに取り組まれています。行事や活動の時の笑顔のある写真から、理念に添った支援に繋がられていることが伺えます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、各種行事にも積極的に参加し、近隣の方たちとは畑作りや町内清掃等、ともに行い密に交流している。	開所当初から町内会に加入し、地域の一員として日常的に交流されています。フラワーアレンジメント、習字、折り紙など、地域住民によるボランティアの訪問があります。また、寺の住職による説法をしてもらい、入居者も喜ばれています。地域からは、野菜の差し入れや、果物狩りの誘いを受けるなどの交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザーがおり、セミナーを施設で開くなどして地域の方々へ認知症の理解を深めていただく努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとの運営推進会議において提供しているサービスについての報告を行い、又、意見等頂いた場合は必ず全職員にて検討し、改善に向けての話し合いを行い、実行している。	会議では、民生委員、地区社会福祉協議会会長、自治会長、地域包括支援センター職員、家族の参加が得られています。会議を利用して、協力歯科医師による歯周病の講義が行われています。管理栄養士が1年間の献立から栄養バランスを分析し、会議で報告、検討されています。男性でも楽しめるレクリエーションの提案が参加者から出され、内容を工夫して実践に繋がっております。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町より入所依頼のあった利用者を受け入れ、家庭の事情等を市町担当者と共に考え、いつでも協力しあえる関係ができています。	地域包括支援センターから依頼があり、困難ケースを受け入れた事例があります。ホームでの対応が困難な場合は、市担当者にご相談し、日頃から協力し合いながら連携されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>開設以来一度も身体拘束を行っていない。又、エアコンの必要でない時期は玄関は勿論、裏口、窓等もすべて無施錠とし、職員の見守りのもと、自由に出入りできるようにしている。</p>	<p>身体拘束をしない方針で、研修やミーティング等で職員に周知徹底するよう努めておられます。ベッド柵に手足を挟む危険のある入居者には、キルトで作ったカバーをかけるなどの工夫をされています。職員は、見守りやアイデアを出し合い代替策の工夫に取り組みられています。転倒予防のため、家族との話し合いの結果、やむを得ずセンサーを使用されたケースがありません。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>本社会議室に於いて全施設の職員を対象とした職員研修会を月1回程度開催し、各種テーマを決めて勉強会をし、それを各自個々の施設に持ち帰り、実践している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>スタッフ会議の後は勉強会を設け、職員全員で研修の機会を持っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時はサービス提供者、施設長、看護師等が出席、家族の不安や疑問点を尋ね、理解・納得いただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や家族会を2ヶ月に一度設け、意見や要望を伺い、運営に役立てている。</p>	<p>日頃から家族とは連絡を綿密に取り、電話や面会時に意見を聞いておられます。年1回、家族懇親会を開催し50～60人の参加があります。毎月、入居者の状況を手紙で報告すると共に、苑便りに日々の生活が分かる写真を載せ、家族の安心に繋げておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎日のスタッフ会議には本社社長又専務の出席があり、自由な意見を述べる機会を設け、処遇や設備等に反映させている。</p>	<p>管理者や看護師が職員の意見を汲み取り、施設長などに伝わる仕組みが築かれています。施設長は、職員とプライベートで会を開くなどの機会をつくり、交流を深めながら意見や相談が聞けるよう体制を整え、精神的サポートにも努めておられます。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は年1回昇給や一時金(賞与)等に日頃の努力、実績を反映させ、職員の向上心等を上昇させるべく整えている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>本社にて月一度の全体研修会を設け、必要と思える研修には個別に対応している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>GH事業者交流会に入会し情報交換、相互訪問してサービスの質の確認を行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入所時は、本人様と面談を行い、どのような生活を望んでおられるか確認し、本人様が安心されるまで側で話をするように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所時、家族様と面談を行い、苑に対する要望を確認している。又、不安に思っておられる事が無い確認し、話しやすい雰囲気にも配慮している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人様又は家族様に対象者様の困り事や身体機能・認知症状を把握し、何が必要なのか総合的に考えるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>食事作りや洗濯たたみ・掃除など利用者様が出来る事は積極的に声を掛け、一緒に行い、家庭的な雰囲気作りに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>積極的に面会して頂く事をお願いしたり、毎月行事案内を郵送し、施設にいても変わらず家族様・近所の方と交流できるように配慮している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>知人・友人と面会は自由に行えるようにしている。お盆やお正月は、自宅に帰ったり、お墓参りに行って頂いている。帰宅願望の強い方には、時折自宅へも同行している。</p>	<p>地元に住む家族の来訪が多くあります。入居者の馴染みの友人の面会について、家族との話し合いにより依頼された事例もあります。入居者が家族と一緒に墓参りなどの外出、外泊などが継続できるよう、下肢筋力の低下予防のリハビリに取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	拒否がない限りは、日中リビングで過ごし、利用者様同士が積極的に関わられるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談に乗り、問題の解決、時に他施設への入所のフォローを行っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント表・センター方式を用い、一人ひとりの意向を確認したり、普段になげない会話の中から真意を把握するようにしている。	職員は、入居者との会話や様子をみながら、思いや意向の把握に努めておられます。また、毎朝の申し送りで職員それぞれが気付いたことなどを全員に伝え情報共有されています。困難な場合は、職員全体で話し合い、入居者本位の支援となるよう取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人様又は家族様と積極的にコミュニケーションを図り、本人様のこれまでの暮らしで来られた背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、変化している利用者様の身体・生活状況を毎日職員間で把握しあい、意識統一を図って本人様にあった無理のない支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人様と家族様の意向やADLにあわせたケアプランを作成し、担当者会議にて本人様・家族様・看護師・介護職員とともに検討し、本人様にあったケアプランに努めている。</p>	<p>6か月ごとに、医療と介護それぞれの部門でモニタリングを実施されています。1年に1回を基本に計画を見直し、家族も含めた担当者会議を開催し、計画作成担当者を中心に計画を作成されています。その他にも、入居者の変化がみられた場合は、その都度話し合い、現状に即した計画の見直しが行われています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>看護師・介護職員・ケアマネジャーそれぞれが利用者様の状況を個別に記入している。毎日朝、利用者様の気付いた事を報告しあい、情報の共有に努めている。その際、問題解決が困難な時は、カンファレンスを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>少しでも元気に笑顔で生活して頂くために、本人様に今何が必要か考え、状況に応じて外出・外泊して頂いている。また、ADLの低下が見られる時に、医師に相談し、訪問マッサージなどを取り入れている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に積極的に参加したり、地域で活動されているボランティアの方々に来苑して頂き、楽しみのある充実した生活の支援に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所時、本人様・家族様に苑の提携病院について説明し、今後のかかりつけ医を決定している。急変時は、24時間体制で支援している。</p>	<p>入居時に希望するかかりつけ医を選択できますが、現在は多くの入居者が協力医療機関で受診されています。2つの協力医療機関による往診が週1回と月2回行われています。必要に応じて歯科の往診もあります。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者様に普段変わった症状が見られた場合は、すぐに看護師に報告し、処置している。介護職員と看護師の連携により、異常の早期発見につながったケースも多く、重症化を防げている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院された際、定期的に相談員に連絡し、本人様の身体状況等の情報収集を行っている。又、入院先の相談員からも定期的に連絡が入っており、連携の強化に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化し終末期であろうと医師の診断が下った利用者に対して医師、家族、職員と話し合い、看取りも含めて苑として出来る事を説明し、納得していただいている。</p>	<p>ホームでできることを説明し、家族の希望があれば看取りも含め、可能な限り支援する方針を持たれています。現在、終末期の入居者がおり、家族の希望でホームで看取る予定です。居室だけで過ごすのではなく、日中はベッドごとリビングに移動し、他の入居者の会話が聞こえる温かい環境で生活感が感じられるように過ごしてもらうよう工夫されています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>いつでもどの職員でも利用者の急変や事故発生時に対応出来る様に定期的に苑内研修を実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防訓練は月1回、夜間消防訓練は月初めに夜勤者全員で行っている。地震時に備えて年に数回訓練を行い、全職員に周知徹底できるよう努めている。年に数回消防署の方に来苑して頂き、救助方法や訓練の指導を行って頂いている。地域では、自主防災会の一員となっている。</p>	<p>災害に備え、入居者一人ひとりに防空頭巾を用意されています。また、3日分の食料の備蓄と調理用のガスボンベも備えておられます。月2回、消防署による研修や消火、避難救出訓練を実施されています。常勤職員は、全員防災管理者研修を受講し、災害時に速やかに対応できるよう取り組まれています。</p>	<p>ホームでは、地域の自主防災の一員でもあり、地域との協力体制が築きやすい環境にあります。今後は、ホームで起こる災害に備えて、地域とお互い協力しあえる体制づくりに期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員同士又は朝の申し送り時に施設長よりの注意等常に言葉かけには気配りし、個人の尊厳を傷つけない対応に配慮しながら支援を行っている。	入居者が昔から慣れ親しまれている呼び名で呼ばれています。施設長は、職員が友だち言葉を遣っていれば、すぐに注意し本人を尊重した言葉遣いをするよう促しておられます。個人情報の取り扱いに配慮し、ホームで把握していない人からの電話や面会には、家族の了解を得て取り次ぐようにされています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話の中で常に何を思っておられるのか知る努力をし、本人の意志を尊重するよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・食事時間もその人のペースに合わせて個別対応を行っている。外出や散歩の希望があればその都度応じている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時、利用者様と一緒に好みの服を選んで着て、頂いている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー決めの段階から参加して頂き、職員とともに作り、一緒に食事をしている。片付けも共に行っている。	ホームでは、食事が生活の基本とされ、食事担当の職員による手作りのものを提供されています。メニューは、入居者の希望を反映されています。気候の良い時期は、庭で昼食やおやつバイキングを楽しまれています。また、年1回の家族懇談会では、食事会も開き、入居者の好きな料理を一品持ち寄ってもらい一緒に食事をされています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、本人様の食事・水分量を記録し、本人様の摂取状況の把握に努めている。その記録に基づいて、その都度分析し、看護師と連携しながら、脱水・栄養失調にならないように支援している。又、年に1回は管理栄養士による栄養バランスのチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず口腔ケアに実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	極力、日中は、定期的にトイレ誘導し、リハパンで過ごして頂くようにしており、おむつの方はほとんどいない。リハパンは布オムツへの目標を立てている。その都度、本人様のADLに応じた変更し、目標達成に努めている。	排泄チェック表で入居者の排泄パターンを把握し、1, 2時間ごとにトイレ誘導を行い、自立に向けて支援されています。トイレに行きたがらない入居者には、立ったついでにトイレ誘導するなど、無理強いしないよう工夫されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	全入所者の毎日の排泄状態を作成し、把握に努め、必要に応じて医師の指示を受け、排泄のコントロールの援助している。水分摂取量を把握し、少なくとも1日1000を目安に摂取して頂いている。毎日、ラジオ体操・歩行練習に参加し、日々の中で運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	夜間入浴希望者は、遅出のいる時間帯で入浴を行っている。日中の入浴は、本人様に確認した上で入浴を行い、時間帯もその人のタイミングに合わせて臨機応変に対応している。	入浴は同性介助を基本に、浴室での見守りが行われています。週2回以上入浴としていますが、時間は特に決めず、入居者のタイミングに合わせた支援に取り組まれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、リビングで傾眠されておられる時は、声を掛け、本人様の意思に添った支援を行い、気持ちよく休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬チェック表を作成し、看護師が準備し、担当者・与薬者と3重にチェックした上で各利用者様のもとへ提供している。薬局から毎回提供されるくすりの説明書を一人ひとりカルテに保管し、いつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	センター方式を用い、本人様の生活歴や特技・生活習慣を把握し、毎日役割を持ち、笑顔で楽しく生活出来るように配慮しながら全職員が支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人様の希望に応じて苑外へ外出できるように支援している。年に1度は、近くの店へ食事に出掛け、皆様に楽しんで頂いている。	重度化している入居者もいるため、全員での外出は難しくなっています。日常的には、ホーム周辺や庭を散歩し、季節感を味わいながら気分転換を図っておられます。日曜日はケアに徹する日に設定され、入居者の希望を聞きながらドライブや季節の花を見に出かけておられます。また、個別対応は家族の協力を得て、外泊や外出ができるよう支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現時点で金銭を自己管理できる方がいない為、金銭等は、苑の金庫に管理している。(以前は、自己管理できる利用者様がいらした為、行っていた)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者様の希望に応じて苑の電話を無料で提供している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有スペースは、季節に応じた花を生け、季節感を感じて頂けるように配慮している。カーテンは遮光のものを使用している。各ユニットに温湿度計を設置し、過ごしやすい空間への配慮に努めている。</p>	<p>リビングには、入居者と職員が一緒に作った季節の壁画が飾られています。また、窓からは四季を感じることのできる景色が眺められます。ホーム近くに小学校、中学校があり、児童の登下校の様子が入居者の癒しともなっています。入居者が座る場所は自然と決まり、好きな場所で思い思いに寛いでおられます。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室で一人で過ごされたい時は、無理強いないで、本人様の意思に添った無理のない支援に努めている。仲の良い利用者様同士が楽しく談話できるように座席等にも配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室が少しでも居心地のよい空間となるよう自宅で長年使用されていたものを持参して頂くようお願いするなどして配慮に努めている。</p>	<p>居室は、エアコン、ベッド、整理タンスが備え付けられています。入居者は使い馴れた椅子や時計、化粧バッグ、裁縫箱などを持ち込まれています。ベッドサイドには、写真を飾る入居者もおり、個性に応じて居心地良く過ごせるように工夫されています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビングルームを広く取り、ゲームやイベントに使用できるようにしている。ピアノや雑誌等を設置し、自由に見て頂けるようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時、職員全員で作った「理念」があり、毎朝の申し送り時唱和して確認、周知徹底し、実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、各種行事にも積極的に参加し、近隣の方たちとは畑作りや町内清掃等、ともに行い密に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザーがおり、セミナーを施設で開くなどして地域の方々へ認知症の理解を深めていただく努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとの運営推進会議において提供しているサービスについての報告を行い、又、意見等頂いた場合は必ず全職員にて検討し、改善に向けての話し合いを行い、実行している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町より入所依頼のあった利用者を受け入れ、家庭の事情等を市町担当者と共に考え、いつでも協力しあえる関係ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>開設以来一度も身体拘束を行っていない。又、エアコンの必要でない時期は玄関は勿論、裏口、窓等もすべて無施錠とし、職員の見守りのもと、自由に出入りできるようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>本社会議室に於いて全施設の職員を対象とした職員研修会を月1回程度開催し、各種テーマを決めて勉強会をし、それを各自個々の施設に持ち帰り、実践している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>スタッフ会議の後は勉強会を設け、職員全員で研修の機会を持っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時はサービス提供者、施設長、看護師等が出席、家族の不安や疑問点を尋ね、理解・納得いただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や家族会を2ヶ月に一度設け、意見や要望を伺い、運営に役立っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎日のスタッフ会議には本社社長又専務の出席があり、自由な意見を述べる機会を設け、処遇や設備等に反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は年1回昇給や一時金(賞与)等に日頃の努力、実績を反映させ、職員の向上心等を上昇させるべく整えている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>本社にて月一度の全体研修会を設け、必要と思える研修には個別に対応している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>GH事業者交流会に入会し情報交換、相互訪問してサービスの質の確認を行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入所時は、本人様と面談を行い、どのような生活を望んでおられるか確認し、本人様が安心されるまで側で話をするように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所時、家族様と面談を行い、苑に対する要望を確認している。又、不安に思っておられる事がないか確認し、話しやすい雰囲気にも配慮している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人様又は家族様に対象者様の困り事や身体機能・認知症状を把握し、何が必要なのか総合的に考えるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>食事作りや洗濯たたみ・掃除など利用者様ができる事は積極的に声を掛け、一緒に行い、家庭的な雰囲気作りに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>積極的に面会して頂く事をお願いしたり、毎月行事案内を郵送し、施設にいても変わらず家族様・近所の方と交流できるように配慮している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>知人・友人と面会は自由に行えるようにしている。お盆やお正月は、自宅に帰ったり、お墓参りに行って頂いている。帰宅願望の強い方には、時折自宅へも同行している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	拒否がない限りは、日中リビングで過ごして頂き、利用者様同士が積極的に関わられるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談に乗り、問題の解決、時に他施設への入所のフォローを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント表・センター方式を用い、一人ひとりの意向を確認したり、普段なにげない会話の中から真意を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人様又は家族様と積極的にコミュニケーションを図り、本人様のこれまでの暮らしで来られた背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、変化している利用者様の身体・生活状況を毎日職員間で把握しあい、意識統一を図って本人様にあった無理のない支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人様と家族様の意向やADLにあわせたケアプランを作成し、担当者会議にて本人様・家族様・看護師・介護職員とともに検討し、本人様にあったケアプランに努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>看護師・介護職員・ケアマネジャーそれぞれが利用者様の状況を個別に記入している。毎日朝、利用者様の気付いた事を報告しあい、情報の共有に努めている。その際、問題解決が困難な時は、カンファレンスを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>少しでも元気に笑顔で生活して頂くために、本人様に今何が必要か考え、状況に応じて外出・外泊して頂いている。また、ADLの低下が見られる時に、医師に相談し、訪問マッサージなどを取り入れている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に積極的に参加したり、地域で活動されているボランティアの方々に来苑して頂き、楽しみのある充実した生活の支援に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所時、本人様・家族様に苑の提携病院について説明し、今後のかかりつけ医を決定している。急変時は、24時間体制で支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者様に普段変わった症状が見られた場合は、すぐに看護師に報告し、処置している。介護職員と看護師の連携により、異常の早期発見につながったケースも多く、重症化を防げている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院された際、定期的に相談員に連絡し、本人様の身体状況等の情報収集を行っている。又、入院先の相談員からも定期的に連絡が入っており、連携の強化に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化し終末期であろうと医師の診断が下った利用者に対して医師、家族、職員と話し合い、看取りも含めて苑として出来る事を説明し、納得していただいている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>いつでもどの職員でも利用者様の急変や事故発生時に対応出来る様に定期的に苑内研修を実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防訓練は月1回、夜間消防訓練は月初めに夜勤者全員で行っている。地震時に備えて年に数回訓練を行い、全職員に周知徹底できるよう努めている。年に数回消防署の方に来苑して頂き、救助方法や訓練の指導を行って頂いている。地域では、自主防災会の一員となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員同士又は朝の申し送り時に施設長よりの注意等常に言葉かけには気配りし、個人の尊厳を傷つけない対応に配慮しながら支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話の中で常に何を思っておられるのか知る努力をし、本人の意志を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・食事時間もその人のペースに合わせて個別対応を行っている。外出や散歩の希望があればその都度応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時、利用者様と一緒に好みの服を選んで着て、頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー決めの段階から参加して頂き、職員とともに作り、一緒に食事をしている。片付けも共に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日、本人様の食事・水分量を記録し、本人様の摂取状況の把握に努めている。その記録に基づいて、その都度分析し、看護師と連携しながら、脱水・栄養失調にならないように支援している。又、年に1回は管理栄養士による栄養バランスのチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず口腔ケアに実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	極力、日中は、定期的にトイレ誘導し、リハビリで過ごして頂くようにしており、おむつの方はほとんどいない。リハビリは布オムツへの目標を立てている。その都度、本人様のADLに応じた変更し、目標達成に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	全入所者の毎日の排泄状態を作成し、把握に努め、必要に応じて医師の指示を受け、排泄のコントロールの援助している。水分摂取量を把握し、少なくとも1日1000を目安に摂取して頂いている。毎日、ラジオ体操・歩行練習に参加し、日々の中で運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	夜間入浴希望者は、遅出のいる時間帯で入浴を行っている。日中の入浴は、本人様に確認した上で入浴を行い、時間帯もその人のタイミングに合わせて臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>日中、リビングで傾眠されておられる時は、声を掛け、本人様の意思に添った支援を行い、気持ちよく休息できるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>内服薬チェック表を作成し、看護師が準備し、担当者・与薬者と3重にチェックした上で各利用者様のもとへ提供している。薬局から毎回提供されるくすりの説明書を一人ひとりカルテに保管し、いつでも見れるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>センター方式を用い、本人様の生活歴や特技・生活習慣を把握し、毎日役割を持ち、笑顔で楽しく生活出来るように配慮しながら全職員が支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>本人様の希望に応じて苑外へ外出できるように支援している。年に1度は、近くの店へ食事に出掛け、皆様に楽しんで頂いている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>現時点で金銭を自己管理できる方がいない為、金銭等は、苑の金庫に管理している。(以前は、自己管理できる利用者様がいらした為、行っていた)</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	利用者様の希望に応じて苑の電話を無料で提供している。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	共有スペースは、季節に応じた花を生け、季節感を感じて頂けるように配慮している。カーテンは遮光のものを使用している。各ユニットに温湿計を設置し、過ごしやすい空間への配慮に努めている。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居室で一人で過ごされたい時は、無理強いないで、本人様の意思に添った無理のない支援に努めている。仲の良い利用者同士が楽しく談話できるように座席等にも配慮している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室が少しでも居心地のよい空間となるよう自宅で長年使用されていたものを持参して頂くようお願いするなどして配慮に努めている。		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	リビングルームを広く取り、ゲームやイベントに使用できるようにしている。ピアノや雑誌等を設置し、自由に見て頂けるようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ほのぼの苑長束

作成日 平成 24 年 6 月 18 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地域との自主防災の協力体制作り	地域との自主防災体制の強化	・自主防災協定を文書にて締結 ・地域の災害訓練に参加(年1回) ・苑の災害訓練へ地域住民の方に参加して頂く(年2回)	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。